



座光寺風景

4年ぶりの通常開催に向けた獅子舞稽古

未来への継承

麻績神社若連中代表 吉川 亮

座光寺地区の皆様には日頃より、壮年団・麻績神社若連中の活動に対しましてご理解・ご支援をいただき誠にありがとうございます。座光寺に春の訪れを告げる麻績神社春祭りの4年振りの通常開催に向け麻績神社若連中をはじめ、自治会や年番地区の方々のご協力をいただきながら準備を進めております。

今年は4月1日（土）宵祭り、2日（日）本日の日程で、宵祭りは年番地区を、本日は若連中の「せーのこい」「サァー！」の掛け声と共に高岡神社から麻績神社までの道のりを、3人の子どもの演じる獅子曳き三兄弟が暴れる獅子をなだめながら練り歩きます。

獅子曳き三兄弟の梅王、松王、桜丸を演じますのは梅王・榎原歩くん（唐沢地区）、松王・仁科安弘くん（下羽場地区）、桜丸・黒川泰生くん（高岡地区）の3名です。子どもたちの凛とした姿にご期待ください。また、笛クラブの演奏するお囃子に合わせて優美な舞を披露してくれる越後獅子を演じますのは、木村望愛さん（宮崎地区）、加藤夢月



笛クラブの皆さん



越後獅子を演じるお2人

さん（宮の前地区）のお2人です。春祭りに華やかな彩りを添えてくれます。そして忘れてはいけない個性豊かな役者たち。獅子曳きを守り、通る道を開ける赤天狗と烏天狗。越後獅子の囃子屋台の周りではおかめ・ひよっとこ・ゲジゲジたちも祭りを盛り上げてくれます。

座光寺の皆様が伝え繋いできた麻績神社春祭りを未来へ継承できるよう、麻績神社若連中一同、頑張つてまいります。ぜひ足をお運びいただき、お楽しみください。

令和4年度 自治会活動報告

座光寺地域自治会長 牧 野 光 彰

令和4年度は、大変なコロナ禍でしたが、「第2次座光寺基本構想・基本計画」の6年目を迎え、目指すまちづくりの将来像「あなたも私も暮らしやすい、自然・文化・ものづくりが煌めく新舞台『麻績の里座光寺』」の実現に向けて、6つのまちづくりを基本方針に実践してまいりました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、事業を計画しても実施できない、規模縮小・延期などの大きな影響を受ける事となりました。その中で、各委員会と連携し、進めてきた主な事業について報告いたします。

基本構想・基本計画も6年目を迎え、令和5年度よりの後期計画に向け、各委員会・団体や地区等より選出された委員の皆さんが、基本方針6つのまちづくりごと、各部会に分かれ、施策ごと見直し検討を行い、その結果を取りまとめ、各戸配布を行い、住民の皆様からのパブリックコメントを経て取りまとめを行いました。

リニア中央新幹線及び関連事業について、座光寺上郷道路では、影響する住民の皆さんの移転も経て、土曾川の管渠工事は本格着工し、飯田線の下を抜けるアンダーパス工事は本年度より着工し、ただ今準備工などの工事が進んでおります。

令和2年度に開通した座光寺スマートインターチェンジについても、地域住民をはじめ、上郷・高森・喬木方面より多くの方の利用が有り、当初の見込みを上回る通行量となっており、今年度もこれに繋がる周辺道路の整備工事が行われており、今後、土地利用計画の見直しなど含め、周辺地域の利活用について検討を進めてまいります。

懸案のリニア本線については、12月に長野県駅の起工式、安全祈願祭も行われ、座光寺側では土曾川をまたぎ駅舎の橋脚工事の準備が進んでおります。また、環境対策工（下段地域の防音防炎フード設置）については、天竜川右岸400m区間のエリアに、リニアが火災発生時停車し、乗客の避難や消火・復旧を行う「異常時列車停車区間」を高さ6mの防音壁とする事を地域として受け入れ、今後、地域貢献策等について関係地区・市・JＲと協議を進めてまいります。

代替地に関しては、唐沢・宮の前代替地について、市道の新設改良工事も終了し、リニア関連工事で移転を余儀なくされた皆さんの、新築移転が進んでおります。また、共和の代替地整備についても整備が完了し住居の移転準備が進んでおります。

昨年度より整備が進められていた、恒川官衙史跡公園整備事業の「恒川清水と周辺エリア」では水をたたえた清水がよみがえり、四阿・ベンチなど住民の皆様が憩えるような公園整備が昨年度完了し、4月には、市長・教育長も出席し、命名板の除幕式と公園のお披露目会が行われました。今後多くの方の憩いの場としての利用が期待されます。また、正倉院エリアにおいては、発掘調査が進み2月26日に現地見学会も行われ、今年度末には発掘調査と正倉院北エリアの公園整備が完了し、来年度より、ガイダンス施設の建築など公園としての整備が進められる予定となっております。



市長と語る会

今年度は座光寺小学校が、明治5年座光如来寺（元善光寺）から始まり150年という長い歴史の節目を迎えました。11月12日に、小学校体育館において、副市長・教育長を迎え式典が行われ、その後、アトラクションセレモニーとして、4年生の舞台校舎を題材とする人形劇や6年生の学校紹介・プロジェクト紹介・マッピング等があり、子どもや大人が語り合う「座光寺の子どもを語る会」も開催されました。また、夕方より、自治会のお祝いのセレモニーとしての竹宵、舞台校舎へのプロジェクトマッピング、花火など行い、2月25日には、記念樹として舞台校の苗木の植樹を中庭に行いました。

今年度は、2年間中止となっていた地域初顔合わせ会を、参加者も例年の半分以下にしばらく、会場もエスバードに変更し市長をはじめたくさんの方にご出席いただき開催しました。

今年度ドローンを購入、歴史に学び地域をたずねる会と連携し、リニア関連事業などで変わり行く地域の姿を映像で後世へ残す活動をはじめ、防災訓練において、ドローン隊を編成、被災地の状況を映像で確認する訓練を行いました。今後も活用を広げて行きたいと思っております。

以上、今年度実施した主な活動を上げさせていただきましたが、大変なコロナ禍の中で活動に制限もありましたが、各委員会と連携し、できる事業を進めてまいりました。

150周年お祝いセレモニー
(プロジェクトマッピング)

7年前から里いもを育て、座光寺保育園の園児たちに収穫体験をさせてくれています。園児たちは収穫体験を通して、座光寺の豊かな自然の中で食べることへの関心が芽生えています。

10年以上にわたり、ごみ収集所にロープを張ったり、不法投棄の確認など、自主的に管理してくださっています。

また、区の清掃とは別に収集所付近の清掃を行うなど、美化活動を善意で行ってくれています。

からそれぞれ
の団体で
何ができ
るかを考え
る機会にな
り有意義な
会だったこ
となどの話



文化部部长
藤田 明彦

3年ぶりに「飯田市民館大会」が開催され参加する中、第2分科会「^{たの}しい公民館活動」「次世代育成」のテーマにつき、我々が携わってきた中で、今後次世代に公民館活動を継続的に繋げていく事や、公民館に対して魅力や興味を持ってもらう事について事例と共に話題提供をさせて頂きました。その中で「^{たの}しい公民館にしていくのも、次世代へ育成・継承していくのも地域での世代を超えた交流とつながりが軸となり、お互いの思いを共有化する

るコミュニケーション」が必ず活きてくる
との思いを
伝え、聞いて
いただきました。
その後のグループワークにおいても、それぞれが地域で抱える課題や公民館活動に対する思いなど、意見交換や話をする中で、これからの地域づくりや公民館活動において参考になる思いや考えを共有できた事は、我々にとっても良い機会となりました。



公民館は地域住民のコミュニティづくりの拠点。コロナ禍で社会環境が変化し、住民ニーズも多様化している今だからこそ、様々な活動を通じて人と人のつながりを深めていく事が重要であり、公民館活動においてもそれぞれの思いや課題を共有しながらコミュニケーションをはかり、自らが愉しいと思える公民館をみんなで創り上げていく事が大切な事だと感じる時間でした。

飯田市公民館大会に参加したことで有意義な一日となりました。

令和
4年度

座光寺地域文化祭



photo
Report

2月4日(土)・5日(日) 繋げよう～明日への絆～



大盛況の屋台



高陵中学校吹奏楽部



座光寺小学校金管バンド グリーンヒルズ

座光寺公民館会場使用案内			
使用案内は各年代代表の方が記入し、終了後消してください			
名	午前	午後	夜間
(和室)			
(和室)			
議室			
教室	文化祭		
議室			
室			
室			
(のり付)			
(畳和室)			
(畳和室)			



囲碁ボールでナイスショット!



オリジナルキーホルダーづくり



自転車シミュレーター体験



水引で小物づくり



風越高校書道部による書道パフォーマンス



飯田ギターマンドリンクラブによる演奏

文化祭を終えて
文化部副部長 宮澤 賢二

通常開催としては3年ぶりに開催となりました文化祭でしたが、多くの皆様にご来場いただき盛況に終えることができましたことに、ご来場された皆様並びに実行委員・参加団体関係者の皆様に感謝申し上げます。

本年度の文化祭はコロナの感染警戒レベルが2月に上がりやすい事を予測し、芸能発表会を10月に、企画・催事・展示を中心とした今回の文化祭と、年間の中で分散開催を行う初めての試みをしました。参加団体・関係者の皆様にはその分お手数をお掛けし



ましたが、当日の子どもたちの楽しい様子を見ることができ、感謝の意に堪えません。

また、今年はおもしろ体験コーナーと題して大会議室を使用してニュースポーツ・キーホルダーづくり・獅子舞といった普段できない事を体験できる企画を行いました。

参加人数はいま一つ振るわない状況ではありましたが、参加いただいた方には非日常として貴重な体験をしていただけたのではと存じます。

先日の反省会で出された内容を踏まえ、来年はさらに多くの皆様に楽しんでいただける文化祭となるよう取り組んでまいります。



座光寺小学校開校150周年 記念碑建立・記念植樹

総務文教部長 中島 英人

座光寺小学校開校150周年記念事業の最後を飾る、記念碑建立と記念植樹式が2月23日（木・休日）と25日（土）の両日、小学校の中庭で行われました。

この記念碑・記念植樹の事業は、座光寺小開校150周年記念に向けて、地域自治会として何ができるか、どのように関わるかと協議を重ねた結果、たどり着いたものです。記念樹は、「麻績の里座光寺」のシンボルである「麻績舞台桜」の子孫と決定し、昨年11月12日に行われた記念式典で、記念碑と共に目録にて寄贈しました。

2月23日、寒空の下、植樹のための準備作業に事業の担当部署である自治会総務文教部を中心に一部の役員だけが集合しました。植樹の場所は、バックネット裏の校舎中庭の一角、西向きの斜面です。その日は、植樹の位置決め・穴掘りの他、植樹当日の時間短縮のため、記念碑建立作業も行いました。記念碑は15cm角、130cm長の柱で、

地面深くコンクリートで埋め、地上の部分は高さ1mくらいです。表面に「開校百五十周年記念」、裏面に「植樹 令和五年二月」と文字が彫られています。

2月25日、植樹当日は朝から抜けるような青空、ぽかぽか陽気で絶好の植樹日和となりました。記念事業に関わった実行委員や自治会役員、学校関係者、市議会議員が参列した他、児童の代表11名も加わって花を添えてくれました。

式は牧野自治会長の「年を経るごとに素晴らしい花を付けて地域を見守ってほしい」とのあいさつで始まり、庭師の先導で児童たちが樹高2m50cmの苗木に手を添えて穴に根鉢を下ろしました。その後参加者が順にスコップ1杯ずつの土をかぶせ、苗木が無事育ってくれることを願いました。

こうして植樹作業を終えた後、教頭先生・PTA会長・市議会議員の皆さんから祝辞をいただき、最後に副児童会

長の代田彩華さんも「このような節目に参加できて嬉しい。自分たちの卒業後も在校生が大切に见守ってほしい」との思いを述べてくれました。

記念樹の桜は今はまだ細い木ではありますが、やがて幹は太く枝葉を張り、そしてきれいな花を咲かせてくれることでしょう。地域の皆様には子どもたちの成長と共に、桜の成長も見守っていただければと思います。総務文教部としてこの事業に関わることができ、感謝申し上げます。ありがとうございました。



新春書き初め会

子どもたちに書初めの機会を提供する、伝統文化に触れる機会を提供する目的で、1月4日（水）に公民館大会議室で「新春書初め会」が、健全育成部の主催で開催されました。小学生16名、中学生1名、保護者11名が参加し、講師の塩澤哲夫先生指導の下、宿題の書初めや、書きたい文字を書いていました。塩澤先生の丁寧な指導により、子どもたちは集中して取り組み組んでいました。そんな姿に影響を受けたのか、書初めに挑戦する保護者の姿も見られました。参加者に感想を聞くと「広いところで書いて良かった」「学校よりも塩澤先生に教えてもらってきれいにかけた」「この機会をつくっていただきありがとうございます（母）」などの声が聞かれました。



広い場所での開催だったので、のびのびと書けたのではないのでしょうか。

4年ぶりの対面ガイドに向け こども桜ガイド学習会

今年も桜の季節がやってきます。3月19日（日）に公民館健全育成部の主催により「こども桜ガイド学習会」が開催されました。

小学生10名が参加し、桜を見に来たお客さんに桜のこと、座光寺のことなどを説明できるように勉強しました。講師は、伊那谷自然友の会小林正明さん。八重桜は、おしべが花びらに変化したという説明に対し、熱心な子どもからは「一種ができなくなってしまうのか」と質問され、「接ぎ木や、挿し木で増やしま



頼もしいガイドの子どもたち

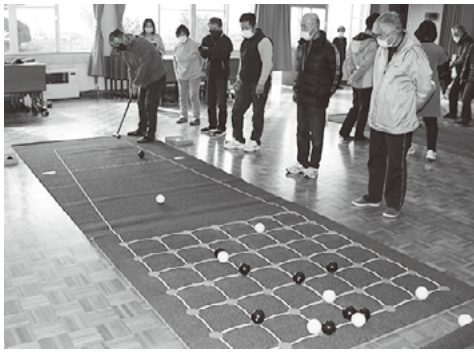
す」と丁寧に答えていました。座学の後には表に出て実践練習。経験者のお手本を見学して、未経験者は、ぎこちない口調で一生涯練習をしていました。今年はいよいよ対面での桜ガイドができそうです。子どもたちからは、やる気のある声が聞かれました。

ニーススポーツ交流会 公民館 体育部

冬季ニーススポーツ交流会が3月5日(日)に行われました。2月頃から各地区へ参加を募り当日はボッチャに28名、囲碁ボールに24名の参加がありました。

当日は体育部からルール説明が行われたあと、ボッチャは小学校体育館、囲碁ボールは公民館大会議室に分かれてそれぞれ試合が行われました。

参加者からは次のような感想がありました。小3 棚田琴音さん「力の加減が難しかった」(囲碁ボール)、塚田 紘さん「ボールの揃え方が難しかった」(囲碁ボール)、小1



碁碁ボール



ボッチャ



西澤晃音さん「チャンスがきたりチャンスがこなかったり楽しかった」(ボッチャ)、小2 林治花さん「ちょっとしかうまくなかったけど楽しかった、またやりたい」(ボッチャ)。

ボッチャは昨年の10月に行われたボッチャ体験交流会に続き今年度2回目の開催となりました。コロナ禍が落ち着きつつある今、徐々に地域の交流の場も増えてきています。

変わりゆく座光寺



土曾川函渠工事 (土曾川大橋から撮影)



唐沢宮の前地区代替地 座光寺282号線 (上郷側から撮影)



下羽場地区 土曾川の堂垣外橋の架替工事 (上郷側から撮影)



中河原地区 保守基地予定地周辺 (高森側から撮影)



天竜川橋りょう工事 (喬木村側から撮影)

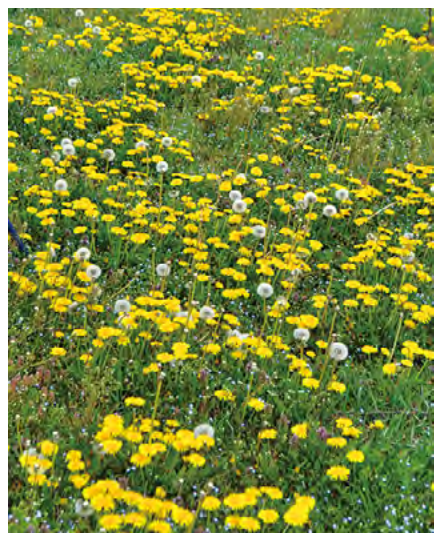
座光寺の自然シリーズ タンポポ

(31)

誰もが知る一番身近にある植物。そんな種類がいくつかあるが、タンポポもその1つ。そしてこの種類は植物学的に興味ある種類だ。そんなタンポポについて考えてみたい。

昔は

終戦直後、私の子ども時代にはナズナなどと共にタンポポの若葉を食用にした。花が咲いていないロゼット状（地表に葉を広げたもの）を採っておひたしにした。ナズナと似た味で、蕾が混じると苦かった。当時は「クジナ」（おそらく苦汁菜）と呼んでいた。名の語源は、たんぼ（拓



リンゴ園の下に咲く群落（4月・宮崎にて）…わい化栽培園には無い。



たねは風散布：下についているのは果実に相当。たね一つずつに冠毛をつけるのも素晴らしい。

本来の生活の場

姿・形から分かるように草原の植物である。葉を地表に広げ、茎は花を咲かせるときだけ。路傍や草丈の低い所に生える。このような場所は農耕地周辺に限られ、農耕が始

まって増えた植物の1つと言える。それ以前は河原などにほんのわずか生えていたと思われる。

種類がある？

このタンポポ、実は何種類かある。長野県内の植物を総合的に調べた「長野県植物誌」（1997）によれば県内から12種（1亜種を含む）が記録されている。牧野植物図鑑（1961）では日本に4種あるとしているが、他にもあるという含みをもたせている。では座光寺には何種類あるのだろうか？

セイヨウタンポポの侵入

セイヨウタンポポは西ヨーロッパ原産。総苞が反り返るので容易に見分けることができる。日本のタンポポは受粉しなければ種子ができないが、セイヨウタンポポは花粉



日本在来タンポポ（左）は総苞が上向き（左矢印）とセイヨウタンポポ（右）は総苞が反り返る（右矢印）

今の姿

座光寺にはタンポポ・セイヨウタンポポ・シロバナタンポポの3種類がある。在来タンポポのシナノタンポポ・カントウタンポポ等は分類に無理があり1種とみなす。さらにセイヨウタンポポと在来種と混血が進み、雑種は総苞が反り返っている。今、座光寺で在来をみつけるのは至難である。シロバナタンポポは混血せずに稀にある。

草花遊び

たねを吹いて飛ばす・草笛・サイフォン・水車など多彩である。身近な花ゆえに昔の子どもたちはいろいろ工夫を凝らした。

（伊那谷自然友の会 小林正明）

編集後記

広報部長の原田です。「広報座光寺」を読んでいただき、ありがとうございます。

広報部長になってから早いもので2年が経過しようとしています。あの頃は新型コロナウイルスで真っ暗闇になり、「広報座光寺」の記事をどうしようかと部員の皆さんと悩んだことを思い出します。小中学校の臨時休校や公民館の休館、自治会の年間行事もほとんど中止という現実と向き合い、どうなってしまうのかと不安に襲われたものでした。

新型コロナウイルスで暗中模索した生活でしたが、ようやく光が見え、出口へと向かっています。政府は、3月13日（月）以降マスクの着用を個人の判断に委ね、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを5月8日（月）に季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針だと報道されています。今まで自粛していた活動がようやく解禁となり、活発に行動ができるようになることを願っています。久しぶりに遠出してみようかな。

お詫びと訂正

1月発行の二十歳の集の特集号において、お名前に誤りがありました。裏面中央写真内、誤「今牧悠斗さん」→正「今牧悠人さん」でした。訂正してお詫び申し上げます。

